

土佐湾で遊漁船業務について学んできました（平成 27 年 8 月 3 日）

参加者は 2 年 1 名、3 年 2 名の 3 名です。宇佐の湊丸・筒井船長から遊漁船業務について講義を受けた後、実釣指導に入りました。

早朝に宇佐漁港を出港し、船は窪川沖を目指します。窪川沖にはシイラ漬けが散在し、航行には注意が必要です。船長は、操船しながら遊漁を仕事にすることの面白さ、辛さを語ってくれました。

一時間ほどで、船は窪川沖に到着し、実釣指導開始です。水深は 9 5 m。魚礁の入っているポイントです。3 名の生徒のうち、ジギングというこの船が得意としている釣りが初めての者が 2 名、ジグの選び方、投入法、操作の仕方等、きめ細かい指導が入ります。

早速、1 人がヒット。その初心者いきなり鰯類のベイケンが来ました。釣った本人は嬉しそう。続いて他の初心者にもヒット。ウツカリカサゴでした。

船長は、常に釣りをしているお客のラインの方向に注意を払い、潮と風を読んで、釣りがしやすいように細心の注意を払い操船してくれます。ここらあたりが遊漁船の船長の真骨頂でしょう。

その後いくつかのポイントを巡りながら初心者がニベやレンコダイを追加し、経験者も良い型の鯛を釣るなど、なかなかの釣果に恵まれました。釣り上がった魚もいますが、大きすぎて糸を切られたことも何度かあり、土佐湾の恐ろしさを痛感しました。

魚も釣れたし、そろそろ帰ろうと、最後のポイントに入ったところ、経験者の竿に良いアタリが・・・数分のやりとりの結果、上がってきたのは巨大なオオニベ。帰港後に検量すると、長さ 9 9 c m、重さ 7. 6 2 k g でした。この研修は全国水産・海洋系高等学校フィッシング技能コンテストを兼ねており、この魚で全国優勝を狙えます。

帰りの航行中、船長は、釣り業界の現状の厳しさ、若い世代の釣り人口の少なさ等、釣り業界の問題をお話してくださいました。

この研修では、船長より参加者に、釣りを楽しむだけではなく、釣りをお客さんに楽しんでもらうためにどうするか、実際に遊漁船を経営していくためには何を考え、どうすべきかを生徒に伝えてもらい、生徒も大変ためになったと思います。実際に卒業即遊漁船経営という道はなかなかありませんが、“プロ意識”の面において有意義であったと思います。

